

五月の朝の花

岡本かの子

青空文庫

ものものしい桜が散った。

だだっぴろく……うんと手足を空に延ばした春の桜が、しゃんら、しゃらしやらとどこかへ飛んで行ってしまった。

空がからつと一たん明るくなった。

しんとした淋しさだ。

だが、すこし我慢してじつと、その空を仰いでいた。

じわじわと、どここの端からかその空がうるんみ始めましたよ、その空が、そして、空じゆうそのうるみが拡がって。

その時、日本の五月の朝の中空には点々、点々、点々、点々。細長いかつちりした薄紫の鈴——桐の花です。お洒落でつつましやかで、おとなしくてお済しで、群っていても実は孤独で、おっとりしていてもなかなか伶俐で。しのびやかにしかもはればれと桐の花。

桐よりも、ずつと背が高いのにせんだんの気の小さいポチポチ花。

だが咲くだけ咲いてしまえば実に思い切りよく大ふうにさらさらと風にまかせて銀砂の様に私達の歩道に、その純白の粉花を一ぱいに敷きつめてくれる。

もう少し行つて御らんなさい。

そら、大粒の赤玉、白玉のメノを七宝の青い葉茎がくつきりうけとめている、チューリップ！

ルビーと紫水晶のかけらのスイートピー。

くじやくの彩羽の紋所ばかり抜いて並べたパンジー。

毛唐国の花だとさげすみながら、人は何と争つて五月の花壇の真中に何よりも大切にこの宝石の様な花たちを、栽培するようになった事よ。さて、その花達に夜の間宿つた露、朝日が射せば香わしいほのかな靄となつて私達のもすそをしめらす。

目をとめてよく見ると、半開きの白ばらの花のかげ——肥料をやりたての根本の赤土の上を生れたばかりの小さいひきがえるがよちよちしている。

お！ 八百屋が、大きな玉菜とオレンジを運んで来た。勝手元の方へ知らせてやろう。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆1 花」作品社

1983（昭和58）年2月25日第1刷発行

1991（平成3）年9月20日第19刷発行

入力：渡邊つよし

校正：菅野朋子

2000年6月3日公開

2005年11月8日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

五月の朝の花

岡本かの子

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>